

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 10 期 だい 1 年 だい 3 回 だい 2 日
(第10期 第1年 第3回 第2日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2014 (平成26)年12月7日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 17人

張 氷青、葉 元聡、任 家林、劉 健全、王 夕心、金 スンオグ、孔
敏淑、崔 想、河 相宇、牟 鳳菊、グエン ゴク バオ リン、仲田
シリワン、ヒラチャン アスカ、ケゼンダア エドワード、セヌー ジョアキム、
河本 ファビオ 良則、オルソン チャールズ、

(2) 事務局

石川 室長、町田 担当課長、長澤 担当課長、大田 担当課長、須藤 課長
補佐、小田切 担当係長、鈴木 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 3人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

セヌー委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議2014年度第3回
第2日を開催する。今日は、ダニエラ委員、シフケン委員、ヘイ委員、園田
委員、タカハシ委員、童委員、鈴木委員、バルトコバ委員、ヴィラマー委員か
ら欠席の連絡が届いている。本日の応援職員の紹介をお願いする。」

(事務局北爪職員が紹介。)

セヌー委員長「今日の日程と配付資料の確認について事務局からお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が確認。)

セヌー委員長「続いて、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

セヌー委員長「それでは、議事に入る。まずは、オープン会議について実行委員会からの報告だ。全体的にみなさんの努力もあり、また、勉強会を2回やったこともあって、無事によりオープン会議にすることができたと思う。話し合った中では、過去の提言の評価について、審議計画に入れた方がよいのではないかという意見があった。私の考えでは、全体会で審議するのがよいと思う。みなさんの意見も聞くことにしたい。」

オルソン副委員長「全体的にはよかったと思うが、もっと我々が考えていることを伝えることができればよかった。」

ケゼングア委員「私もオープン会議自体は、全体的によかったと思う。特に、基調発表やパネルディスカッションは非常によかった。改善の余地があると思ったのは、パネルディスカッションの後半のQ&Aの時間が少し足りない気がした。来年度に向けて時間配分を工夫できればと思う。」

劉委員「みなさん1人ずつ述べていくと時間が足りないのではないか。」

セヌー委員長「みなさんの意見を聞きたい。」

葉委員「細かいところだが。基調発表の内容はとてもよかったが、説明するときにもう少し話のイントネーションをつけた方がよかったかもしれない。」

牟委員「私も全体的にすごくよかったと思う。基調発表でいろいろな話が聞けたのですごく勉強になった。」

任部会長「フィールドワークが少なくなってきたという話があったと思うが、実際に我々は市内視察にも行った。その施設の方たちにもっとオープン会議のPRをすればよかったと思った。そうすれば、もっとたくさんの方が参加してくれたのではないかと思う。」

河委員「通常の会議の傍聴者よりも、たくさんの方に来ていただいたので、その意味ではすごくこの会議の存在をアピールできたのではないかと思う。できれば、もっとたくさんの方に参加してもらいたいが、特に高校生や大学生といった若い世代に参加してもらえるとよいと思う。個人的には、議員の方が1人か2人でも参加してくれたら嬉しかった。」

ヒラチャン委員「基本的にはよかったのかなと思う。Q & Aの部分だが、時間が足りなかったという意見も出たが、その場での発言だとなかなか質問者と回答者のやりとりがかみ合わないとも感じた。まだアイデアはないのだが、来年度に向けて検討する余地があると思う。」

金委員「基調発表は原稿を見ながらだったが、とても聞き取りやすい日本語でよかったと思う。一方、たとえば副委員長の話は原稿がなく、日本語として不明瞭なところはあったが、言いたいことは伝わってきてすごくよかった。質疑応答は、コーディネーターの先生が非常にうまく回していた。多分、質疑応答の時間が少し足りなくなるぐらいが美しい終わり方だと思うので、ちょうどよかったと思う。たしかに、その場で質問をしてもらうのは理想的だが、実際にはどうしても話が長くなってしまうので難しい。事前に質問を出してもらったことで、黙ってしまう時間がなかったのでよかったと思う。」

河本委員「僕も個人的にオープン会議はよかったと思うが、できればもう少し参加者の意見をその場で聞けるとよいと思う。」

孔委員「今回、劉さんが基調発表の資料をつくってくれてありがとうございました。それと、高橋さんがいろいろわかりやすく修正してくれて助かりました。今まで基調発表というのはなかったが、これからもまた生かしていけたらと思う。というのも、今まで私たちがどういうことをやってきたのか、そして、これからどういうテーマを取り上げて話していくのか、それをちゃんと来ていただいたみなさんに話すことができたのでとてもよいプランだったと思う。」

グエン委員「全体的にはよかったと思うが、スケジュールのバランスを見直す必要があると思う。私たち代表者が一般の人と交流する時間をもっと増やしたい。」

仲田委員「パネルディスカッションや質疑応答で話をしているときに、スクリーンに今何を話しているのかを映せるとよいと思った。交流パーティーでは、いろいろな活動をしているグループの情報をいっぱいもらえてよかった。」

王委員「みなさんそれぞれの役割をはたして、すごくいいチームワークだったと思うが、専門用語が少し気になった。もう少しやさしい日本語で説明し方がよいと思う。パネルディスカッションはいろいろ考える機会になったので、大変勉強になった。」

張委員「今回のオープン会議はとてもよかったと思う。特にパネルディスカッションは、5人のゲストはすべて代表者会議に関わっている

人たちで、しかも3人は私たちと同じ外国人だった。質疑応答の流れもとでもよかったと思う。去年のオープン会議は専門の先生がいらっしゃって話をしてくださったが、少し日本語が難しかった。今回はそれほど難しいこともなかったのよかったです。」

劉委員「私は当日参加できなかったのですが、準備についての感想を述べたい。みなさんの感想を聞いていると、『とてもよかった』という意見が多かったのよかったです。ただ、準備をするのはとても大変だったということも認識してほしい。私が大変だったことを知ってほしいという意味ではなく、私たちが何かのアイデアをかたちにするときには、どのような作業が必要かということを想像してほしい。たとえば、パワーポイントではルビを振る機能がないので、細かい作業をすべて高橋さんにしていただいた。基調発表の説明もわかりやすいストーリーにするために、勉強会だけではなく、高橋さんと何回もやりとりをした。その辺りのことはみなさんには見えていないと思うが、今回私は経験してみて大変さを実感したので、ぜひみなさんにも認識してほしいと思った。次回もまた私たちが発表をしたいと考えているが、そのときはぜひみなさんで協力し合えたらと思う。」

崔委員「準備がすばらしかったので、時間どおりに進行できたと思う。個人的には、パネルディスカッションのパネリストが少し多かったように感じた。2人、3人の方がテンポよく話が進んだかもしれない。質疑応答はメリットとデメリットがあると思うが、その場で挙手をして発言するチャンスがあってもよかったかもしれない。」

セヌー委員長「劉さんの言うとおりに、次回も基調発表をやるのであれば、みなさんでパワーポイントの作成に挑戦してみたらよいかもしれない。続いて、アンケートの集計結果について事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料2-1に基づき説明。)

セヌー委員長「ここまでで、何か追加で意見をしたい人はいるか。」

劉委員「私は出張があったので残念ながら今回のオープン会議に参加できなかったのだが、みなさんが感じたぜひ改善したい点があれば教えてください。」

セヌー委員長「オープン会議に関して何か改善したいことはあるか。(なし) 」

劉さんは何かあるのか。」

劉委員「開催場所をローテーションにした方がよいのではないかと思います。毎回、中原市民館だと、中原区以外の人にとってはアクセスしにくいのではない

か。」

セヌー委員長「会場については、今回は2回続けて中原区になったが、前々回は川崎区で、その前は高津区だった。」

牟委員「先ほど河さんもおっしゃったが、もっとオープン会議に若い世代の方に参加してもらえたらいいなと思う。学校を通してもっとPRしたら先生たちもたくさん参加してくれるのではないかと思う。」

セヌー委員長「この点に関しては事務局から説明をお願いしたい。」

事務局高橋専門調査員「学校を通してのPRということだと思うが、オープン会議の案内はニューズレターに大きめの記事で書いている。ニューズレターは川崎市内のすべての公立の小学校、中学校に送られている。先生がまたか来ていないかは、参加者に職業を聞いているわけではないので把握できない。アンケートもそもそも18名の方しか回答していない。もしかしたら先生もいたかもしれない。教育委員会の方が来ていたのは知っている。

PRはもちろん重要だと思うが、実はみなさんが思うほどPRの成果が簡単にあがるわけではない。たとえば、過去の代表者の方たちにも、毎回事務局からニューズレターを送っている。今回に関しては、ニューズレターとは別にオープン会議の案内も送っている。みなさんは、元代表者の人たちは積極的に参加してくれると思うのかもしれないが、実際には今回のオープン会議に参加した元代表者は1人か2人しかいなかった。同じことは第9期の代表者も言っていたが、結局、任期が終わってしまうと積極的に参加するという人は少なくなってしまうということが事実としてある。」

セヌー委員長「オープン会議についての審議を少し延長したいがよいか。賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）オープン会議で出た意見についても話し合いたいのだが、過去の提言の評価については、審議テーマとして挙げたが、部会の審議計画の中には入っていない。私は全体で話し合うのがよいのではないかと思う。もう1つOB会については、現時点では難しいのではないかと思う。みなさんの意見は。」

仲田委員「日本語のクラスに参加しているのでみんなを誘うのだが、みんな会議のイメージがとてもわかりにくいと言っている。日本語が難しい、私とは関係ないというイメージを持たれている。」

オルソン副委員長「私ももう少し人が来ればよかったと思っていたが、話をいろいろ聞くと、わざわざ遠いところから来たりするほどの魅力がどこまであるのか

とも思った。よっぽど興味深いテーマや内容でなければ参加者は増えないのではないか。」

セヌー委員長「事務局からは何かあるか。」

事務局高橋専門調査員「1点だけ、みなさんにお伺いしたい。来年度のことについてだが、時間が短かったという意見が何人かの人から出たと思うが、その点についてみなさんの考えや感想をお聞きしたい。今の段階で課題が把握できていれば、改善できることがあるかもしれない。」

ケゼンダ委員「個人的には短かったと感じた。とくに最初の自己紹介のときに、自分の名前とか自分の国のことぐらいいい言えなくて、この会議に対する姿勢とか意見は述べられなかったのは残念だ。あと先ほども話したQ&Aの時間ももう少し長く延ばせたらよいと思う。でも、だからといってそれを長くするために午前中から時間をとる必要はない。せいぜい30分から1時間ぐら延ばせば大丈夫だと思う。」

ヒラチャン委員「私も時間は短かったかなと思う。ただ、1点気になっているのは、3時間であれだけの人が来てくれて、ではさらに4時間とかになったときに日曜日の午後ずっと使って出てきてくれる人がいるのかは気になる。途中の入退場ができたとしても、午後いっぱいだとするとさらに足が重くなってしまいう人も出てくるかもしれない。」

河委員「私は、時間はちょうどよかったのかなと感じた。というのは、実施する側はもちろんいろいろな人にこういった会議の内容、活動していますということ伝える時間が長い方がよいのだが、参加する側のことも考えなくてはいけないだろう。もっと一緒に参加できるようなかたちならまた違ってくる部分もあるが、今のようなかたちならちょうどよかったのではないかと思う。」

セヌー委員長「それでは時間になったので、部会審議に移る。」

【福祉教育部会】

劉委員「部会の審議を始めたい。本日は園田さんが欠席ということで、私が代理として進行を務める。まず資料3をご覧ください。本日の流れとしては、まず前回の内容を簡単に確認して、その次に前回の補足資料について少し振り返りをする。その後、学校について、PTA、保護者支援などについて審議したい。まずは、前回の補足について事務局からお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

劉委員「みなさんから何かあるか。（なし）では、引き続き前回の補足について事務局からお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料3-1に基づき説明。）

劉委員「ポイントとしては次の4つだ。（1）中学校の生徒の人数が小学校よりも半分くらいに減っているのは、小学校が6年間で中学校が3年間だからだということがあった。（2）4歳以下の子どもが他と比べて比較的多いということもわかった。（3）いじめについてのデータは、いじめの『認知件数』というところがポイントだ。（4）相談機関・救済制度については、約85%の人が何かしら知っているということがわかった。みなさんから何かあるか。」

崔委員「いじめについてだが、2012年に小学校が飛びぬけて増えているのだが、何か理由があるのだろうか。相談機関に関しては、85%は知っているということだが、実際に連絡をした児童や親はどのくらいいるのだろうか。」

金委員「私の子どもは今小学校の3年生で公立の小学校に行っているのだが、学校でのおつきあいで感じるのは、学校現場がいじめに対してすごく神経質になっているという印象がある。いじめの芽を1つでも発見したら、全力で取り組もうという先生方の意気込みを感じる。個人的には、神経質過ぎるのではないかと思うくらいだ。おそらく認知件数が増えたのは、いじめに対して真剣に取り組もうということになったので、ちょっとしたことでいじめの芽ではということでは捉えるようになったためだと思う。」

仲田委員「いじめの問題だが、私の子どもと話していたら、いじめられた子は自分で電話をしたそうだ。でも、電話で話ただけで、親にも相談していない、学校にも相談していないそうだ。」

劉委員「私も気になっているのは、相談機関を利用した後になんかどうなっているのかということだ。相談しても状況が改善されていなければ意味がない。事務局にもお聞きしたい。」

事務局高橋専門調査員「もし提言にするならば、推測で提言にすることはできない。なので、今後提言の候補になるのであれば、参考人招致やフィールドワークなどを実施して、きちんと実態を把握する必要があるだろう。現状では、事務局も実態は把握できていない。」

ケゼンダ委員「やはり相談をした後になんかどうなっているのかということが知りたい。フィールドワークなどで担当者に直接聞くのもよいだろう。」

劉委員「ほかに意見はあるか。なければ次に移りたい。（なし）では、本日の

審議テーマにうつりたい。まずは事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-2に基づき説明。)

劉委員「今の説明に関して何かあるか。」

仲田委員「ガイドブックのことなのだが、私の子どもは2008年に入学した。でも、ガイドブックは日本語しかなかった。川崎市の学校には外国人のためのガイドブックはあるのか。」

劉委員「事務局からお願いする。」

事務局高橋専門調査員「今、みなさんに見てもらっているのは、国で作成しているガイドブックだ。誰でもウェブからダウンロードすることができる。川崎市には市が作成している保護者用のハンドブックが多言語である。それは子どもが外国籍の場合に配られることになっている。子どもが外国籍の場合について話したい。まず、国で作成しているガイドブックは、みなさんが自分で手に入れなければいけない。2005年に作成されているが、みなさんに配っているものではない。

それとは別に、学校には外国人のためのガイドブックはあるかという質問があったが、先生たちが外国人保護者とどう関係をつくっていくべきか、具体的な方法やどのようにしたらよいかという実践例を紹介したものとして『帰国・外国人児童生徒指導の手引き』という先生用のものがある。ガイドブックについては、後半の議論と関連してくると思う。」

劉委員「続きは、また後半で議論したい。次は、外国人保護者の会についてだ。まずは、提案をした牟さんから資料を読んだ感想や意見を聞きたい。」

牟委員「まず、そのような会があるかどうかということが1つの疑問だった。私の子どもの学校では、帰国子女のための会があり、そこではいろいろとわからないことについて聞いたり、教えてもらったりすることができる。そのような会がどこの学校にもあるとよいのではないかと考えている。」

劉委員「では、事務局からの説明と回答をお願いする。」

事務局高橋専門調査員「少し話を整理させてもらおうと、牟さんからの質問は、質問にあるように、外国人保護者の会はありますかということだった。これに関しては、教育委員会に確認したところ把握はしていないが、おそらく今は『ない』ということだった。過去にはあったそう。代表者会議の昔の資料でも、過去にあったことは確認できた。次に、宮前区の学校には『わかばの会』や「たんぽぽの会」といった会がある。これは外国人保護者だけではなく、

日本人も含めて外国から帰ってきた人や外国籍の人をサポートする会だ。

提言に関して、まず正確に理解してほしいのは、提言は『外国人保護者の会をつくってください』という意味のものではない。『外国人保護者の会をつくったときにはサポートしてほしい』という意味の提言だ。」

仲田委員「たとえば、懇談会などで自己紹介のときに外国人だとわかって、他のクラスの人と知り合いになれるわけではない。自分たちでグループをつくりたくても連絡がとれない。そこは学校にサポートしてほしい。」

金委員「今は個人情報保護ということが徹底されていて、各家庭の電話番号が載っている連絡網もつukらない決まりになっている。何かトラブルがあっても、親同士で連絡するというのを学校はすごく嫌う。だから、外国人の保護者の会だけを特化して援助してくれというのは、今は非常に難しいと思う。」

ケゼングア委員「資料に『各学校に外国人保護者の相談窓口になる担当者を置く』と書いてあるが、実際にそれぞれの学校に担当の先生がいるのか。」

事務局高橋専門調査員「確認をしていないので正確ではないが、専門の担当者という意味ではないと思う。おそらく、先生が持ち回りで担当者ということになっているのだと思う。」

仲田委員「私が言いたかったのは、連絡網をつくってほしいということではなく、集まるための呼びかけを学校にしてほしいという意味だ。PTAの集まりなども学校から連絡がくるだろう。同じようにできないか。」

金委員「PTAの活動は学校全体の子どもたちにかかわる活動なので、学校の先生が援助するというのはある。でも、外国人だけというのは全員に関係することではないし、個人情報に関わる部分もあるので学校にそれを求めるのは難しいと思う。」

劉委員「時間も限られているので、今日はここまで打ち切りたい。もしまだ議論したいということであれば、あらためて振り返りのときなどに提案してほしい。続いて、保護者支援の提言について事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-2に基づき説明。)

劉委員「追加の補足や質問はあるか。(なし)では、次は高校進学に向けた学習支援員の派遣についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3-2に基づき説明。)

牟委員「13校以外で学習支援を受けたい場合はどうなるのか。」

事務局高橋専門調査員「学校が決まっているわけではない。あくまで支援が必要な子

どもに^{たい}対しての^{せいど}制度だということだ。2013^{ねんど}年度は^{たいしょう}対象となる^{せいと}生徒が24^{にん}人で、その^こ子どもたちが^{ざいせき}在籍している^{がっこう}学校がたまたま13^{こう}校だったということだ。^{だれ}誰が^{りよう}利用できるのかということに関しては、^{まえ}前に^{もんだい}でてきた^{おな}問題と同じだ。現状では、^{にほんご}日本語能力が^{ひく}低い^こ子ども^{せいど}のための^{せいど}制度だ。^{にほんご}日本語がある^{ていど}程度^{べんきよう}できて^{むすか}も勉強^{むすか}が^{むすか}難しい^{むすか}ということがあるのは^{ざんねん}わかるが、^{ざんねん}残念ながら^{てあつ}そこまで^{せいど}手厚い^{せいど}制度には^ななっていない。」

崔委員「^{じゅうぶん}十分ではない^{すば}かもしれないが、^{せいど}素晴らしい^{おも}制度だ^{おも}と思う。」

事務局^{たかばし}高橋^{せんもん}専門^{ちゆうざい}調査員「^{こじんてき}個人的に^{はなし}話を^き聞き^いに行^いかせて^{もら}もらった^{こと}ことがあるが、^{にほんご}日本語^{しどう}指導^{きょうりやく}協力者^{かた}の方^{かた}は^{とても}とても^{ねっしん}熱心^{ねっしん}で、たとえば、^{にほんご}日本語の^よ読^よめ^{ない}ない^{ほご}保護者^{ほご}への^{れんらく}連絡^ななど^{せいど}制度^{わく}の^{おさ}枠^{おさ}には^{おさ}おさま^{らない}らない^{よう}ような^{さぽーと}サポート^もも^たたく^{さん}さん^{して}してく^{れて}いて^{いた}いた。^{かいすう}回数^{かい}や^{じかん}1回^{かん}あたりの^{じかん}時間^{かん}に関して^もも^{っと}増^やや^せせ^{ない}ない^かかという^{いけん}意見^{いけん}もある^かか^{もしれ}もしれ^{ない}ない^がが、^こ子ども^{しゅうちゅうりやく}たちの^{しゅうちゅうりやく}集中^な方も^{なが}それほど^{つづ}長く^{つづ}は^{つづ}続^{かない}かない^{こと}ことも^き聞^{いた}いた。」

劉委員「^{じかん}そろそろ^{じかん}時間^{いけん}になる^{いけん}が^{いけん}何か^{いけん}意見^{いけん}などは^{いけん}ある^{いけん}か。^{なし}(なし)なければ^{じかい}次回^{じかい}の^{しりょう}資料^{かん}に関して^{りくえすと}のリクエスト^{じむきよく}を^{じむきよく}事務局^{じむきよく}に。」

崔委員「^{こうれいしゃ}高齢者^{じんこう}の^{じんこう}人口^{がいこくじん}とその^{こうれいしゃ}うちの^{じんこう}外国人^{じんこう}の高齢者^{じんこう}の^{じんこう}人口^{かいごせんたー}。それと^{かいごせんたー}介護^{かいごせんたー}センター^ななどの^{かず}数^{ちくご}。地区^{ちくご}ごとに^{ちくご}わかれば^{ちくご}地区^{ちくご}ごとに。できる^{はんい}範囲^{おねが}で^{おねが}お願い^{したい}したい。」

金委員「^{かいごほけんせいど}介護保険^{りようしゃ}制度^{りようしゃ}の利用者^{がいこくせき}で、^{ひと}外国人^{ひと}籍^{ひと}の人^{ひと}。それと、^{がいこくじん}外国人^{とつか}に^{しせつ}特化^{しせつ}した^{しせつ}施設^{しせつ}が^もも^しある^しるのであれば、^し知り^{たい}たい。いく^{しやうかい}つか^{しやうかい}紹介^{しやうかい}してもら^うう^{だけ}だけでも^{よい}よい。」

仲田委員「^{ねんきん}年金^{かんたん}についての^{せつめい}簡単な^{せつめい}説明^{せつめい}を。」

ケゼンダ委員「^{わたし}私も^{ねんきん}年金^{ほけんせいど}と^{ほけんせいど}保険^{ほけんせいど}制度^{ほけんせいど}について^{だが}だが、^{がいこくじん}外国人^{とつか}に^{じょうほう}特化^{じょうほう}した^{じょうほう}情報^{じょうほう}が^{あれ}あれ^ばば^し知り^{たい}たい。」

劉委員「^{じかん}ちょうど^{じかん}時間^おになった^おので^お終^{わり}わりに^おしたい^お。実は^{じつ}園田^{そのだ}さん^{そのだ}からは^{こくさいこうりゅう}国際^{こくさいこうりゅう}交流^{こくさいこうりゅう}ラウンジ^{こくさいこうりゅう}に^{こくさいこうりゅう}フィールド^{こくさいこうりゅう}ワーク^{こくさいこうりゅう}に行^ききたい^{こくさいこうりゅう}ということ^{こくさいこうりゅう}を^き聞^{いて}いて^{いる}いる。^{くわ}詳しく^{くわ}は、^{じかい}次回^{そのだ}園田^{そのだ}さん^{そのだ}から^{せつめい}説明^{せつめい}してもら^うう^{こと}に^{したい}したい。それと、^{こんご}今後^{こんご}参考^{こんご}人^{こんご}招^{しょう}致^{しょう}を^{する}する^{こと}に^{なる}なる^{と思}思う^{ので}ので、^{おも}その^{おも}候補^{おも}を^{かんが}考^{かんが}えて^おお^{いて}いて^{ほしい}ほしい。それでは、^{きょう}今日^{きょう}は^おこれで^お終^{わり}わりに^おする。」

【社会生活部会】

任部会長「^{ぶかい}部会^{はじ}を始め^{はじ}たい。今日^{きょう}の内容^{ないよう}は、^{きょじゅうしえん}居住^{たんきたいざいしゃ}支援^{しえん}と^{しえん}短期^{しえん}滞在^{しえん}者の^{しえん}支援^{しえん}、それと^{ぜんかい}前^{ぜんかい}回の^{のこ}残^{のこ}った^{ねんきん}年金^{きぎょうしえん}と^{きぎょうしえん}起^{きぎょうしえん}業^{きぎょうしえん}支援^{きぎょうしえん}だ。まずは、^{ぜんかい}前^{ぜんかい}回^{のこ}残^{のこ}った^{もの}もの^{つづ}の^{つづ}続^きき^{をや}や^{って}って、^{その}その^{あと}あと、^{きょじゅうしえん}居住^{うつ}支援^{ぜんかい}に移^{はなし}り^{なか}たい。前^{ぜんかい}回^{はなし}の^{なか}話^{はなし}の中^{なか}で^{はい}介^{はい}護^ご職^{しよく}の^{しよく}就^{しよく}職^{しよく}相^{しよく}談^{しよく}会^{しよく}、^{めんせつかい}面^{めん}接^{せつ}会^{かい}と

というのがあったのを覚えていたのか。この会が3月に川崎市で行われるそうなのだが、2月の参考人招致で来ていただいて話をしてもらってもよいのではないかと思うのだが、どうだろうか。」

孔委員「会の内容は、面接のやり方を紹介するものか。それとも、その仕事を紹介するものか。」

事務局町田課長「まだ、正式に決まっているわけではないが、午前中は相談会で午後に座談会ということを知っている。」

任部会長「参考人招致の1つの選択肢として考えておいてほしい。起業支援については、前は資料に目を通しただけで議論には入れなかったが、何かあるか。」

グエン委員「川崎市に事務所を置いて申請すれば、川崎市が200万円の補助金を支給してくれる。」

セヌー委員長「それは、リンさんが実践したものか。」

グエン委員「そうだ。」

セヌー委員長「もしそのような制度があるのであれば、そういう人を呼んで、制度がどのようなものなのか説明してもらい、その後、どうやって外国人市民のみなさんに宣伝するか話し合っ、改善する余地があるようであれば、提言として出すというのが私の意見だ。」

グエン委員「これは私の個人的な意見で前回も話したのだが、今、現行の制度があるのにこれ以上何をしてほしいのかが私にはわからない。私は、制度はもう十分だと思っている。よく調べていないで、要求をしてもそれはただのわがままだ。それと、この中で起業したいという人はどれだけいるのか。たくさんいるなら議論してもよいと思うが、みなさん本当に起業したいのか。まずはそこから確認するべきではないか。」

孔委員「私は、外国人が日本に来て起業したいということだったら代表者会議を通じてということにはならないと思う。ちゃんと自分で、市にはどういった支援があるのかなどを調べると思う。」

張委員「私も孔さんの意見に賛成する。起業したい人は、もうかなり日本語の能力は高いはずだ。私たちがここで話し合うことではないと思う。」

グエン委員「起業したい人は、すでになんか日本の生活と日本のシステムを十分わかっている。日本語能力だけではなくて、そういった知識もわかったうえで起業する。リスクも理解したうえで起業する。」

オルソン副委員長「この前の会議でワンストップの窓口をつくるべきという表現があったが、私はそれも無理だと思う。私の知り合いのカナダ人が起業したが、彼は最初は日本語がほとんどできなかったが、ものすごく熱心に情報を調べたり、人を集めたりして問題を解決した。はたして川崎市の約3万人の外国人の中で起業したい人はどれくらいいるのか。少ないのであれば、提言としてふさわしくないとと思う。」

孔委員「私は、行政書士事務所で5年間、日本で起業したい韓国の人の書類などを整える仕事をしていたが、起業したい人たちは一応全部自分で調べてから事務所に来る。なので、このテーマは私たちが話し合うべきか、ということに疑問をもつ。」

任部会長「少しまとめをしたい。これまでの議論や情報は、私たちの周りで起業したいという人がいれば私たちが伝達していくことも代表者としての役目だと思う。ただ、このテーマはこれ以上時間をかけて議論するものではないと思うのだが、起業支援についてはいったんお終いということでよいか。賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）では、過半数なので起業支援についてはここまでとする。」

オルソン副委員長「事務局が準備してくれた資料をどこかで公開できないか。」

王委員「次のニューズレターに載せることはできないか。」

任部会長「事務局と相談してみたい。では、次は年金制度に移りたい。まずは提案したオルソンさんから何かあるか。」

オルソン副委員長「今まで誤解していたことがあったが、今回の資料でだいぶわかったこともある。1981年までは外国人は年金に加入できなかったもので、私が日本に来たときはまだ加入ができなかった。私が第一に言いたいことは、みんなは個人で自分の将来のために何かのかたちで準備をしなければいけないということだ。外国人の場合にはいつか帰るかもしれないので、将来のことはわからない部分もある。現在の25年という加入期間は長いですが、これが10年になればわりとよくなるだろう。私が誤解していたことのひとつは、加入期間を満たしていても海外へ行ったらもらえないと思っていたことだ。加入期間を満たしていれば、海外でももらえるのであればそんなに悪い制度ではないと思う人も多いただろう。」

グエン委員「私も年金をメインの議題にしたいと提案したい。日本人も年金には関心が高いと思う。みんなが心配しているのは、私たちは今年金を払って

るが、将来受け取ることができるのかということだ。これからさらに少子化になるのに、誰が私たちの年金を払ってくれるのか。」

任部会長「3年か5年しか日本にいないで帰ってしまった場合、払った分は戻ってこないのか。」

グエン委員「戻ってくる。」

オルソン副委員長「資料を見ると3年までは、払った分の5割くらいが戻ってくる。

しかし、3年以上になると決まった金額しか戻ってこない。」

グエン委員「全額戻ってきてほしいということか。」

オルソン副委員長「全額戻ってきてほしいというよりも、参加するかどうかを選べるようにしてほしい。」

孔委員「会社に勤めている場合には天引きされているだろう。」

オルソン副委員長「年金の場合には、25年に満たないことがわかっている場合には加入しなくてもよいと書いてある。」

張委員「私も相談なく勝手に天引きされている。」

グエン委員「天引きされているのは会社がしっかりとしているという証拠だ。よいことだと思おう。」

任部会長「今の会話の方向は、年金の話ではなくて企業の話になっているので、一度話を戻したい。」

葉委員「私をはっきり確認したいのは、一部払っていないという人がいるという現状ではなくて、法律では必ず加入しなければいけないということになっているのかということだ。」

河委員「年金は川崎市ではなく国の制度だ。過去の提言を見ても国に対しての要望というのは難しいようだが。もし、提言するのであればどうすればよいのかということを知りたい。」

任部会長「私は制度がわからなくて学生のときは払わなかった。就職してから制度も理解できて払うようになったが、学生のときの分は未納だ。後から払える制度があるとよい。」

葉委員「私の理解では、後から払うこともできるはずだ。年金に関しては、外国人の場合の問題は日本を出ると制度から脱退しなければいけないことだと思おう。」

任部会長「年金に関する問題は、やはり情報不足にあるのでは。」

河委員「社会保障協定の国を増やすことを提言にしては。」

任部会長「国同士の話になってくるので難しいのでは。」

孔委員「実現するかどうかは別として働きかけることは提言してもよいのでは。」

グエン委員「難しいかもしれないが、私たちには直接政府に働きかけることはできないので、提言してもよいと思う。ただ、過去にも提言になっている。」

任部会長「今日は結論が出ないと思う。次回、もう少し具体的に話したい。居住問題や短期滞在者の支援も次回に持ち越しということではよいか。」

河委員「質問だが、予定表では提言のまとめに4回ほどあるが提言の数にもよって違ってくると思うのだが、これまでは提言の数はどうだったのか。2つか、3つくらいか。」

張委員「1つの部会で3つは難しいと思う。」

孔委員「今はまだ絞らなくてよいと思う。」

任部会長「それでは、時間なので終わりにする。」

【全体会】

セヌー委員長「それでは、全体会議を再開する。まずは部会報告を社会生活部会からお願いする。」

任部会長「今回は2つのテーマについて議論したが、とても盛りあがった。1つは外国人に向けての就職支援、起業支援について。もう1つは年金制度についてだ。外国人に向けての就職支援については、相談会をやっているという情報があり、その担当者に参考人として来てもらうという話になった。正式な決定は次回になる。起業支援については、前々回から議論しているテーマだがいろいろな情報や制度が理解できた。代表者会議で引き続き話し合うかどうかということで、話し合いはここで終わりにするということを決めた。年金制度については、みなさん疑問を持っているようだ。たとえば、外国人であっても日本にいる限り支払いは義務だ。帰国した場合には脱退一時金というものがある。ただし、金額は少ない。提言にするためには、外国人が抱えている課題に絞るのがよいただろうということになった。外国人の場合、最初は制度がわからなくて払わなかったが、後から払いたいということがあるという意見が出た。具体的なことはこれから深めていく。今回予定していた生活保護と居住支援については、時間が足りなくなってしまったので次回に持ち越しとした。」

セヌー委員長「社会生活部会から補足はあるか。」

張委員「起業支援については、せっかく事務局が資料をたくさん用意してくれて何かに役に立つのではないかと思うので、ニューズレターに載せたい。」

事務局高橋専門調査員「次のニューズレターの記事はもう決まってしまうている。載せるかどうかは、編集委員会で検討するというところでよいか。」

セヌー委員長「福祉教育部会の人から質問はあるか。」

劉委員「年金の話だが、さかのぼって支払える制度があったと思うのだが。」

任部会長「さかのぼって払える制度はある。その制度を知らないという意見があったということだ。」

崔委員「脱退一時金がもらえるということだが、そもそもどれくらい認知されているのか。」

任部会長「部会では知らないという人もいた。現状を把握したいという議論になったところでとどまっている。」

セヌー委員長「続いて、福祉教育部会の報告をお願いします。」

劉委員「本日は、園田さんが欠席なので、私が代理として報告する。まず、前回でた中学校の生徒の人数が小学校の半分に減っているという疑問が解決された。私立への入学もあるが、一番の要因は、中学校は3年間で小学校は6年間ということだ。次に表の1-2を見ていただきたいが、4歳以下の子どもの人数が多いということもわかった。表の2-2では、いじめの相談機関と救済制度について約85%の児童・生徒が情報を知っているということがわかった。ただ、実際に相談があったあとの対応やフィードバックがどのようになっているのかということがまだ不明で、フィールドワークなどで見学に行くのもよいのではないかという意見も出た。ここまでは前回の補足と続きだ。」

今日のテーマについては、まず、文部科学省が外国人児童生徒のための就学ガイドブックを多言語で作成していることがわかった。外国人保護者の会については現状を知りたいということだったが、今はないということがわかった。保護者支援については、第9期で提言になっているので、そのことについて情報を共有した。高校進学に向けた学習支援員の派遣については、年次報告書に載っている13校というのは2013年度の実施校ということで、利用できる学校が限定されているわけではないということがわかった。次回のテーマは高齢者の支援と介護、年金と保険だが、みなさんからは基本的な統計データがほしいというリクエストがあった。」

セヌー委員長「同じ部会から補足はあるか。(なし) 社会生活部会から質問はあるか。」

るか。」

任部長「年金制度については社会生活部会でも審議しているので、関心が同じであれば共通で参考人招致をしてもよいのではないかと思った。」

セヌ一委員長「ほかに質問はあるか。(なし)では、実行委員会報告に移る。まずはニューズレターからお願いする。」

孔委員「今日は、ニューズレターNo. 53について話をした。原稿と担当者の確認をして、原稿の締め切りを1月上旬に決めた。今日はニューズレターのメンバーで写真撮影をする予定だったが、休みの方が多かったので、次回にすることにした。残っていたスペースについては、葉さんがメーデーについて記事を書いてくれることになった。」

セヌ一委員長「何か質問あるか。(なし)次に、市民祭り実行委員会から報告をお願いする。」

仲田委員「川崎市民祭りの感想と反省点だが、1日目は残念ながらずっと雨が降っていて、お客さんも少なかった。2日目はとてもよい天気でお客さんもたくさん来て、世界のお茶や魚釣り、パスポートもとても人気だった。ただ、代表者の参加者がとても少なかったのは問題だ。午前中は多かったが、午後は6人しかいなかった。パレードも8人しかいなかった。来年はぜひもっと参加をお願いしたい。」

多文化フェスタさいわいは、曇りと雨だったがお客さんはたくさん来てくれた。場所は広くはないけれど、参加者の人たちは国際のことに興味があつてとても話しやすかった。実行委員会では、来年も市民祭りと多文化フェスタに参加したいということになった。事務局がいろいろと準備してくれたことについてもお礼を言いたい。」

セヌ一委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、これで議事はすべて終わった。事務局から事務連絡をお願いする。」

事務局北爪職員「事務連絡が2点ある。机の上に来年度の代表者会議の開催日程の案をお配りした。来月の会議で決めてもらうことになるので、確認をしておいてください。もう1つ、国際交流協会からの災害に関するアンケートをお配りした。ぜひ協力をお願いしたい。」

セヌ一委員長「次回の会議は、来年1月18日曜日、午後2時からだ。これで、2014年度第3回第2日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」